

平成24年7月8日 旭川市
第121回北海道精神神経学会

当院における再燃を繰り返す症例に対する メンテナンスECTの検討

五稜会病院

山口 択 ・ 相方謙一郎 ・ 中島公博
立花 蘭 ・ 境さやか ・ 富永英俊 ・ 千丈雅徳

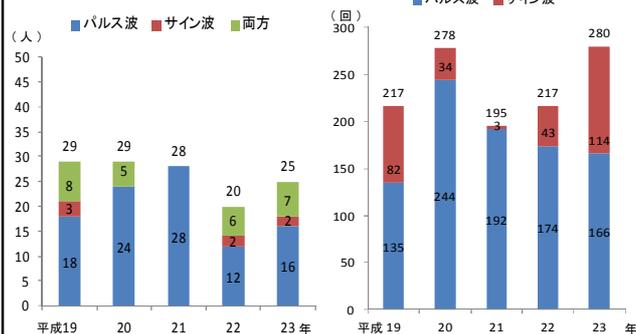
当院でのECTの変遷

- 平成12年10月、ECTの施行を開始。
- 平成15年6月を最後に有けいれんECTを終了。
- 平成19年4月、サイマトロン(パルス波)を導入。
・・・従来の木箱(サイン波)は第二選択に。
- 平成19年6月、ECTクリニカルパスを導入。
・・・術前から術後までの評価・記録を一元管理。
- 平成23年11月、症例数増加に対応するため
処置室を整備。1日3例まで施行可能に。

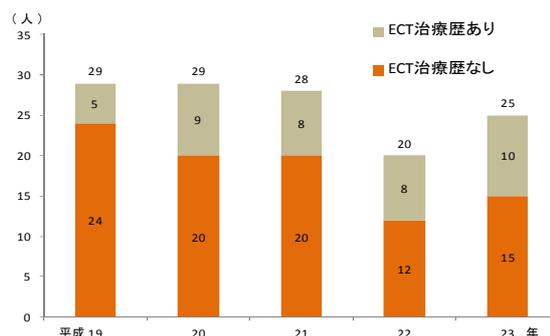
ECT種類別の年次推移

<患者数>

<施行回数>



ECT治療歴の有無による 患者数の年次推移



この2年間のECT施行症例概要

- 期間: 平成22年4月～平成24年3月
- 患者数: 39名(男性13名、女性26名)
- 年齢: 21～70歳、平均: 47.3歳
- 診断: 統合失調症圏(F2) 32名、
気分障害圏(F3) 5名、その他 2名
- 状態: 幻覚妄想状態20名、躁状態4名、
緊張・昏迷状態13名、抑うつ状態2名
- 1～2クール施行(1クール 5回)。
- 重い合併症や副作用を認めず。

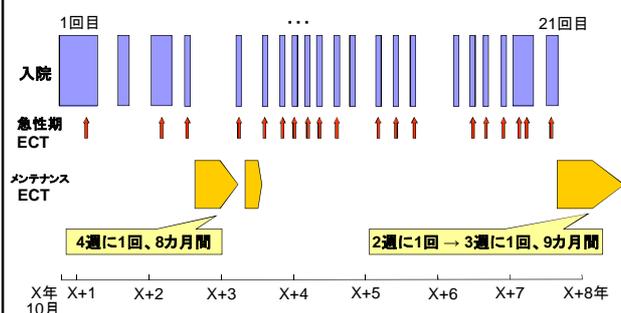
この2年間のECT再施行症例

- 39名のうちECT治療歴がない患者27名、
過去にECT治療歴がある患者12名。
- 11名はこの2年間で重複してECTを施行。
- さらに、そのうち2名は寛解期が短いために
ECTが多重回に及ぶ。
- 再燃予防を目的としてメンテナンスECTを
導入することとした。

症例1

- 65歳、女性、統合失調感情障害
- 当院初診後、躁状態から幻覚妄想状態となる。その後は緊張病状態を繰り返す。
- 過去に4週に1回のメンテナンスECTを行ったが、8カ月で再燃し入院。その後も再燃のたびに入院を繰り返し、多くは薬剤抵抗性でECTが著効。
- 再入院までの期間は数カ月であり、2週に1回のメンテナンスECTを導入した。
- 2週に1回から3週に1回に間隔を延長。維持期間が過去最長の9ヶ月となっている。

症例1 経過



症例2

- 58歳、男性、統合失調症
- 30年以上も長期入院しており、著しい幻覚妄想・緊張病状態にて7年前にECT施行。
- その後も、症状再燃時にECTを何度か施行したが、ECT後2カ月で再燃するようになる。
- 再燃までの期間が1カ月程度となったため、4週間隔で1クール(5回)のメンテナンスECTを導入。
- 5カ月が経過。施行後4週目には妄想が出現することもあるが、以前のような緊張病状態は認めない。

考察

- 1クールの施行回数および間隔については、2つの方法を採用。
A: 2週に1回から開始し、徐々に間隔を延長。
B: 4週間隔で複数回(2-5回)施行する。
- ECT終了後1年以内の再燃率が高いと報告されていることから、1年間の継続が望ましい。
- 寛解期間が半年未満、入院が必要な再燃を3回以上繰り返している患者が適応。
- ECTの長期化により認知機能などの影響が懸念される。

まとめ

- 当院におけるこの2年間のECT施行症例の概要と、再燃を繰り返す症例に対してメンテナンスECTを導入した経緯を報告した。
- メンテナンスECTは、薬剤抵抗性で再燃を繰り返す症例に対して有効であると考えられる。
- 施行方法、適応、長期的影響などについて今後も検討が必要であり、指針となるガイドラインの作成が望まれる。